

# 高き志を掲げて

「今週の倫理」は創刊から1000号の節目を迎えました。今月は、本紙に関連した内容や、「千」「1000」という文字や数字にちなんだ法人会の活動を取り上げます。



え・たむらかずみ

十月のテーマ

創刊千号！

「今週の倫理」は今号で一千号を迎えました。一九九七（平成九）年九月の創刊から毎週一回の発行を重ねることができましたのは、ご愛読いただいている皆様のお陰です。改めて感謝申し上げます。

「千」といえば、隔月刊の『倫理ネットワーク』誌では、巻頭言のタイトルを「志在千里」としています。

これは三国志で有名な武将であり政治家であった曹操の漢詩、「老いた駿馬は馬屋で伏せていても千里を走る志は遙か遠くにあり、激しい気性をもった志士の意気盛んな思ひは止むところがない」の一節より引いたものです。

「高き志と希望を持って、駿馬のごとく千里を走り抜きたい」との願いを込めています。

志によって物事は成就し、人生が創られるといっても過言ではありません。改めて本紙発行への志を高き掲げ、皆様のお役に立てるよう、工夫と努力を重ねてまいります。引き続き、ご愛読の程よろしくお願い申し上げます。

倫理研究所法人局局长 内田文朗

## 今

から十九年前、本紙の発行が始まった平成九年は、どのような年だったのでしょうか。

その年、消費税が五パーセントに引き上げられました。日本が初めてサッカー・ワールドカップへの出場を決めた年でもあります。

倫理法人会においては、会員数が目覚ましく伸びた時期でした。年間数千単位で会員数が増加し、翌平成十年に二万社、その三年後の三万社達成へと続きました。

凄まじい普及の伸びの一方で、さまざまな課題もありました。最も重要だったのは、純粋倫理を説く教育体制の整備でした。

言うまでもなく、倫理法人会は、純粋倫理を学ぶ場です。倫理経営の実践から、会社や地域が変わり、やがて日本の創造的な再生（日本創生）への道筋を切り拓いていくことを目的とした団体です。

「規模が大きくなることで、肝心の学びが疎かになってしまっただけはいけません！」そうした危惧から、経営者の学習資料という位置づけで発行に到ったのが「今週の倫理」

でした。

第一号にあたる平成九年九月一日号のタイトルは「日々好日、今日のほかに人生はない」。その後は『万人幸福の栞』の第一条から順次テーマとして取り上げました。

「モーニングセミナー」での会長挨拶のヒントになるようなものがほしい」という要望に応える側面もあったため、当初はFAX通信として、全国の会長宅にのみ送られていました。

その後、事務局を窓口にも、広く会員の皆様の手に渡るようになって現在に至ります。

時にタイムリーな話題を取り上げながら、いかに平易に、噛み砕いて倫理を伝えるか。何より、日々血の滲むような苦勞をしておられる経営者の皆様の心に響くものを届けるという使命は、創刊時も、今も変わりません。

千号という通過点は、「開店の日のいきごみを忘れない」ための節目なのだと思いに受け止めて、今後とも皆様の学びを助ける紙面づくりを一貫してまいります。